

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	あらぐさこども食堂
-----	-----------

取組の名称	あらぐさこども食堂
実施場所	あらぐさ教室
対象地域	武蔵中原駅周辺
対象地域の特色・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅に近く通勤通学しやすいことから核家族共働き世帯が多い。毎年保育園が新設されている。放課後は校門前に何社もの習い事等送迎車が待機している程、子どもも大人も忙しい生活スタイルで、地域等人とのかかわりが薄い。 ・ 風紀が良い安心安全な地域。
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活スタイルの様々な事情により、一人もしくはこどもだけで食事をしているケースが増えている。その食事内容は栄養バランスにかけていると想像つく。食卓を囲み、おしゃべりを交わしながら食べることで、食事が楽しい美味しいと感じつつ、人とつながりあって成長し、生きる力の構築の一助となることと、居場所になることを目指す。 ・ こどもからその保護者ともつながり、子育てを共有し楽しめるようにする。
実施内容・実施スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月第4火曜日の18時～20時に食堂を開く。 (コロナ禍の当面の間は、17時30分～19時にお弁当の提供、自宅にて食してもらっている) ・ 第2火曜日には、バランスよい栄養価のある季節を感じられるメニューを管理栄養士を中心にボランティアスタッフと立案する。

参加者の年代	子育て世代 単身高齢者	定員 (1回あたり)	20名 (弁当30食)
実施頻度	月1回	活動日数 (年間)	12日
スタッフ体制	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかぎ教室関係者4名 ・栄養士、調理師各1名 ・調理ボランティア5名 		
連携する団体・ 連携の手法	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきこども食堂ネットワークより支援情報をもらう ・かわさき市民活動センターにチラシを置いてもらう ・ほっとスペースとの交流 ・町内会住民との交流 		
取組実施により 見込まれた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度はコロナ禍のため、12回すべてお弁当の提供であった。食を通しての交流はできなかったものの、お弁当の受け渡し時に子育て近況を交わしあった。また、一人暮らしの方は、一日誰とも話さない日もあるとのことで、ソーシャルディスタンスをとってお弁当をとり、マスクをしてのおしゃべりをしている。 ・コロナ禍でもこども食堂を締めずお弁当提供を続けることで、ボランティアが生きがいであるとスタッフの気持ちを喜び高め続けられている。 ・ほっとスペースの仲介で、地元の農家さんより野菜を提供してもらえるようになった。 ・掲示板を見ての食品提供を頻繁に頂くようになって、こども食堂の認知理解の広がりを感じる。 		